

# 福まち通信

新型コロナウイルスの流行がまだ収まりません。

手洗いやうがいなどの励行など基本的な予防策を続けましょう。

雪解けが急速に進んでいますが、路面は滑りやすいところが残っています。外出の際は十分にご注意ください。

毎月3日は「見守りの日」です。ひとり暮らしの方のサポートをいつも心掛けて行きましょう

## 3月の行事

3日(金) 札幌市「見守りの日」

※西岡げんきランド ひなまつり

10日(火) ※第10回代表推進員会議

17日(火) ※西岡げんきランド おわかれ会

31日(金) 役員会議

※印 新型コロナ対策のため中止

## 4月の行事予定

3日(金) 札幌市「見守りの日」

11日(土) イオンの日

14日(火) 令和2年度推進員全体会議

21日(火) 西岡げんきランド

30日(木) 役員会議

## ☆第3回安心安全研修会の開催結果～報告～

福まち主催第3回研修会は、2月20日(木)にしおか会館で推進員を中心に町内会・自治会会長や区役所、社会福祉協議会ほか関係機関の方々65名が参加し、開催されました。

今回の研修会は、『茶話会活動など福まち活動について』をテーマに、2町内会の代表推進員に具体的な活動内容や事例を紹介して頂きました。その要点を報告します。

### ◇大和東町内会 発表者 代表推進員 鎌倉 恵美子さん

5年間、推進員を経験した。福まち活動が良く判らないところからスタート。

日頃の見守り活動とそれにつながる茶話会活動を継続している。

○見守りは、推進員が分担して毎月1回第2火曜日を訪問日と決め、それぞれの自宅を声掛け訪問することを徹底実施している。

また、毎年推進委員会を開催し、お互い情報交換、情報共有し対応。

○茶話会は、推進員が中心となり年間2回開催してきたが、町内会の理解を得て回数を増やし、現在は年間3回開催、12～13名が参加。

・茶話会の内容は、食事と楽しく談笑のほか、その時々皆が関心を持つ話題を選び、札幌市の出前講座を活用し、講師を派遣して貰い勉強会を併せて行っている。

健康や福祉など身近な暮らしや札幌市の事業などの説明を聞き勉強。

・4年前は、「熱中症対策」がテーマ。

・3年前は、町連主催の防災訓練で段ボールを活用した実地訓練に参加し、地域でも大切と実感し、「防災に関する話」をテーマとした。

実際に、翌年9月あの胆振東部地震・ブラックアウトが発生しましたが、慌てず落ち着いて対応できたのも、防災の勉強が少しは活かされ良かったと思う。

- ・そして、2年前は、「ゴミの分別やりサイクル」などをテーマに、清掃事務所の方の説明。併せて、包括支援センターからは、「転倒防止に関する話」を願い、有意義に対応。
- ・今年度は、1回目はクイズ形式で間違い探しを楽しみ、2回目は包括支援センターの協力を得て、「人生100年」をテーマに、健康などを中心に話題提供して貰いました。

○今後とも、地域のお役に立てる様に、皆で頑張っ活動して行きたい。

#### ◇北斗町内会 発表者 代表推進員 石川 美代子さん

ご自身は、「ふれ愛交流会」などの司会を経験も、勝手が違うせいか、まずは、リラックスのため、町内会の愛唱歌：誉の長寿会（リンゴの唄の替え歌！）を皆で合唱し、発表がスタート。段々とユーモアも混じえて、時間が足りなくなる程。

この歌は、石川さん自身が作詞。茶話会の際に、皆で合唱しているとの事。

○福まち活動がスタートの当時は、任意のボランティア。活動自体が中々町内会に伝わらない悩みを抱えながら推移、試行錯誤しながらの活動が続いた。

○福まちが、西岡地区の社会福祉協議会の実働部隊の位置づけで、町連・町内会と一体的に組織整備されたのは、17年前（平成24年）。その頃から、推進員の意識、活動などが徐々に変わり、町内会とのつながりが、はっきりとしてきた。

○北斗町内会においても、最初は、町内会役員でさえ福まち活動を十分に知らなかった。

活動を年々積み重ねる中で認知度も増し、現在は福祉部の役員（5名）が推進員を兼ね、それに5名のボランティアの方が推進員を担い、9名体制で活動。（石川さんは4代目の代表推進員）

○茶話会は、最初は、ひとり暮らしの方17名が参加。それに町内会長、区長（4名）を招き開催。その後、町内会全部に交流を拡げる狙いで、現在は参加者の範囲を広げ、

- ・70歳以上のひとり暮らしの方
- ・75歳以上で配偶者のいない方（子どもと同居の方を対象）
- ・80歳以上で夫婦のみの方 を対象としている。

毎回、60名以上の方が参加、町内会の総会以上の集まりで、皆の関心も高く、町内会活動の大きな柱となっている。

○町内会役員の方の協力も大変良く、回覧板で開催案内の後、推進員が直接参加の確認に訪問すると、毎回、10名以上の方が追加申し込みになる程に地域に浸透。

推進員と高齢者の方との距離感が近くなり、周辺情報も把握し易く、気懸りなケースは、即、包括支援センターに相談し、ディーサービスや認知症関連の対応などが円滑に行えている。

隣近所との付き合いが活き、意識を失った高齢者を危機一髪、救出のケースもあり、支え合いの大切さを実感。

○茶話会の催しは、踊り、詩吟、ダンス、手品など幅広く、健康パークも取り入れた。

外部から芸人を呼ぶことなく、町内会の方が協力し、自前で対応（高齢者も率先し芸を披露）お互い顔見知りも多く、一緒に食事を摂り、楽しく、賑やかに一日を過ごしている。

◇お二人の発表が終わり、若干の質疑の後、区役所や関係機関の方からの感想を聞きました。

推進員の方の苦労が色々と察しられる。「出前講座」を上手に活用したり、自前で企画、工夫するなど、幅広く交流の輪を拡げ、地域での役割を見事に発揮し、大変に頼もしく感じたなどのコメントがありました。

◇これらの事例を参考とし、協力し活動を続けることを皆で確認した有意義な研修会でした。